

会 議 録

会 議 名	令和元年度 第2回 根室市子ども・子育て会議
開 催 日 時	令和2年2月13日（木）午後6時00分～午後7時00分
開 催 場 所	根室市役所 3階 大会議室
出 席 委 員	藤原会長、宇井副会長、遠藤委員、木根委員、齋藤委員、能村委員、濱屋委員、久山委員、平賀委員、山白委員 以上10名出席
欠 席 委 員	鍛冶委員、幸坂委員、小土委員、佐々木委員、砂山委員、中下委員 以上6名欠席
事 務 局	佐藤総合政策室長、鳥井こども子育て課長、大沼少子化対策推進主査、猪口総合政策主査、川西こども子育て主査、鎌田こども子育て主査、井平福祉主査、佐々木健康推進主査、永澤健康指導主査、鈴木健康指導主査、大宮学校教育主査、齋藤社会教育主査

【概 要】

1. 開会

2. 挨拶

- 会 長 本日は先に行われたアンケート集計結果の報告がありますが、結果を見ますと、皆さん大変な状況の中で子育てを行っているということが伝わってまいります。今年度で平成27年度からの5か年を1期目とする、子ども・子育て支援事業計画が終わるということで、次年度から始まる第2期計画の素案が示されますので、こうした皆さんの思いを引き継ぎ、委員の皆様からいただく様々なご意見を反映していくことで、根室市の子育て環境がより良いものとなるよう、有意義な会議としていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。
- 事 務 局 本日の会議は、出席者11名、欠席者5名であり、半数以上が出席となりますので、子ども・子育て会議条例 第6条 第3項の規定により、会議が成立しておりますことをご報告いたします。
- それでは、この後の進行は子ども・子育て会議条例第6条第2項の規定により会長が議長となり、進めていただくこととなります。
- 会 長 本日の会議は、報告事項1件と協議事項1件の2件とその他になります。事務局より説明をお願いします。

3. 報告事項

(1) 子ども・子育て支援事業計画策定に伴うアンケート調査結果について

- 事 務 局 資料1、資料2により説明
- 会 長 ただいまの事務局からの説明について、何かご質問などはございますか。
(意見なし)

4. 協議事項

(1) 第2期 子ども・子育て支援事業計画（素案）について

- 事 務 局 資料3により説明

(新生児聴覚検査助成について)【資料3】P26

- 委員 費用の負担割合については9割が助成、1割が自己負担でしょうか。
- 事務局 自己負担が1割となっています。

(幼児の虫歯、肥満、食習慣の状況について)【資料3】P14

- 会長 ここ数年の傾向として、朝食欠食率が上がったり、肥満の子の割合が増えたりなど、全体的に悪化しているように見受けられます。幼児期の教育や家庭での生活習慣の課題を汲み取れると思うのですが、これに関わって対応等伺えますか。
- 事務局 肥満や食習慣に関しては、私たちも課題の一つとして考えております。
市では幼稚園や保育所において、劇で食育活動を進めている他、乳幼児健診において、お子さんの食事や食育についての助言を行っていますが、効果的に良い食習慣を身に付けていただく方法について、検討を行っています。
- 会長 保護者への支援がテーマになってくると思いますが、引き続きよろしくお願ひします。

5. その他

(病児保育事業について)【資料3】P35

- 委員 アンケート結果では病児保育を求める意見が多かったと感じます。幼稚園や保育所において病児保育を実施するのはなかなか難しいと思いますが、市としての対応について伺えますか。
- 事務局 病児保育はアンケート結果にもあるとおり、お子さんが小さい間はいろいろな病気になることも多く、それに伴い保護者の負担が生じていることは承知しています。
全道的には病児保育の対応ができる場所は14団体となっており、全道では179団体ありますが、病気のお子さんを預かるということは、かなりの責任を伴うことから、実施が難しいと言われております。根室市においても実施するとなれば、施設の整備や医療スタッフが必要になるため、難しいと考えておりますが、ニーズはありますので、他の子育て支援策との優先順位や、近隣の状況も含めて検討していきたいと考えています。
近郊では、十勝管内でしか実施できておらず、札幌市や旭川市などの医療機関が充実している都市は連携しやすい様ですが、道東やオホーツクなど、小児科医の確保もままならない地域では、難しいところもありますので、現在は先進地の状況を情報収集している段階です。

(障害児施策の充実、特別支援教育の充実について)【資料3】P28、P29

- 委員 障がいを持つ児童が安心して社会参加ということで、様々な面で充実してきているとは思いますが。記載にあります「必要に応じて臨床心理士や言語聴覚士、作業療法士などの専門職による指導・助言」については、こども子育て課を通して、年間スケジュールを組み、対応してもらっており、以前に比べると充実してきてはいます。
しかし、現状では申し込みをすると、美幌町から言語聴覚士が年に1、2回来てくれますが、高学年になると2年に1回や、3年に1回のサイクルですので、

是非、小さい時からそういう支援を受ける機会を要望したいと思っており、市として臨床心理士や言語聴覚士、作業療法士を採用するべきだと思います。

また、特別支援教育に関わっては、教育委員会で特別支援学校の分校・分室の誘致活動を進めると伺いました。冬場の寒中、大変な思いをして釧路市や中標津町までお子さんを送る親御さんもいます。中標津町に特別支援学校ができましたが、高等部の間口が減ってきた現状があり、小学校と中学校が開設されたものの、寄宿舎は小中学校としての独立校舎が無い中での支援学校となりました。

誘致に係わっては市役所全体で取り組み、子ども・子育て会議も連携して、是非とも実現して欲しいと思います。

○事務局 障害児施策や特別支援教育の充実について、言語の関係では発達支援事業において、美幌町の療育病院から言語聴覚士や作業療法士の派遣を受けている状況であり、今後、市で核となる人材を確保しながら、医療機関と連携していくのが目指していく姿かと思えます。

しかし、現状としては発達支援センターのような施設もない状況ですので、療育病院のようなところと連携しながら、お子さんが地域によって受けられる支援に差が出ないように進めて行きたいと考えております。

また、言語聴覚士などの人材は確保が難しく、療育病院でも作業療法士等の確保に苦慮していると聞いています。根室に来ていただくにしても5、6年の経験が無ければ、新卒では難しいという話もあり、当市においても人材の確保が一番のネックとなりますので、今後の課題として、今やっている部分は続けながら、関係機関と連携していきたいと思えます。

○事務局 新聞報道でもご承知のとおり、花咲港小学校に併設する形で、特別支援学校の分校・分教室の誘致活動を行っており、昨年12月には花咲港地域の皆様にもご説明し、概ね合意をいただいたところです。

明日から市長、議長、特別支援学校を作る会で、北海道知事や北海道教育委員会に要請活動を行う予定であり、一刻も早い特別支援学校の設置に向けて、関係機関と協力していきたいと考えています。

●委員 作業療法士等は、根室市の学校を卒業して、資格を取って本州や札幌市など各地で活躍している方もいますので、市で採用があれば、地元に戻ろうという可能性もありますし、ある程度の経験も必要ではありますが、将来構想として検討いただきたいと思います。

(その他、連絡事項)

○事務局 今回、ご説明した資料3「第2期 子ども・子育て支援事業計画(素案)」については、今後、議会への説明や関係部署との調整を経て、2月中にパブリックコメントを行う予定としています。皆様からのご意見を反映させて決定する予定ですが、特に修正が伴わない場合は本日お示しした内容で決定といたしますのでご承知願います。事務局からは以上です。

6. 閉会

●会長 以上をもちまして、第2回子ども・子育て会議を閉会いたします。